

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第3回運営委員会次第

- 1 日時 平成30年11月27日(火)13時30分～14時30分
- 2 場所 大日本印刷株式会社 五反田ビル 1階ホール
- 3 出席者 林(会長)、甘利(副会長)、鈴木(清水副会長の代理)、佐波、柳生、飯野、見目
(長瀬委員の代理)、高橋(星川委員の代理)、中島、緒方、Li、池田、遠藤
陪席者 平岡(セコム)、前田(大日本印刷)、伊達(〃) Liu(スリーエム ジャパン)、真城(DRI
ジャパン)、山本(電力中央研究所)、阿部(防災科学技術研究所)、中島(〃)、前山(〃)、
石濱(筑波大学)
その他 古谷(筑波大学)、大塚(〃)、松原(〃) (敬称略)

4 議事

第3回運営委員会出席者名簿について(資料1)

【審議】

- (1) シンポジウムパネルディスカッション進行について(案)(資料2～4)
- (2) 参画機関担当科目の担当教員について(資料5)
- (3) インターンシッププログラムに関する申合せ(案)について(資料6)
- (4) 印章管理規則(案)について(資料7)
- (5) 台湾 NCDR における運営委員会開催について(案)(資料8)

(6) その他

【報告】

- (1) 第4回幹事会(H30.10.22)について(資料9)
- (2) シンポジウムの事前登録状況・参画機関参加状況について(資料10)
- (3) 客員教員人事について
- (4) ウェブサイトについて
- (5) その他

14時30分～15時10分 大日本印刷株式会社 五反田ビル 見学会

(配付資料)

資料1	第3回運営委員会出席者名簿	P.1～
資料2	シンポジウムパネルディスカッション進行について(案)	P.3～
資料3	シンポジウム当日スケジュール	P.5～
資料4	シンポジウムポスター	P.7～
資料5	参画機関担当科目の担当教員について	P.9～
資料6	インターンシップの実施に関する申合せ(案)	P.11～
資料7	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 印章管理規則(案)	P.15～
資料8	台湾 NCDR における運営委員会開催について(案)	P.17～
資料9	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第4回幹事会議事要旨	P.19～
資料10	シンポジウムの事前登録状況・参画機関参加状況について	P.21～

Resilience Research and Education Promotion Consortium
3rd Steering Committee Summary

1. Date/Time ----- November 27th, 2018 (Tuesday) 13:30-14:30
2. Venue ----- Dai Nippon Printing Co., Ltd. Gotanda building 1F hall
3. Attendee ----- Hayashi (President), Amari(Vice-president), Suzuki (understudy of Shimizu Vice-president), Sanami, Yagyu, Iino, Kenmoku (understudy of Nagase), Takahashi (understudy of Hoshikawa), Nakajima, Ogata, Li, Ikeda, Endo
Observer ----- Hiraoka (SECOM), Maeda (Dai Nippon Printing), Date ("), Liu (3M Japan), Mashiro (DRI Japan), Yamamoto (CRIEPI), Abe (NIED), Nakajima ("), Maeyama ("), Ishihama (University of Tsukuba)
Others ----- Furuya (University of Tsukuba), Otsuka("), Matsubara(")
(without honorific)

4. Agenda

Concerning the List of attendee of the 3rd Steering Committee. (Handout 1)

【Deliberations】

- (1) Concerning the moderate of panel discussion in the symposium (plan) (Handout 2-4)
- (2) Concerning the Visiting Professors/Visiting Associate Professors who are charge in the subjects of associated institutions (Handout 5)
- (3) Concerning the Agreement of the Internship Program (plan) (Handout 6)
- (4) Concerning the Management Rules of the Seal (plan) (Handout 7)
- (5) Concerning to hold the Steering Committee at NCDR (Taiwan) (plan) (Handout 8)
- (6) Other

【Reports】

- (1) Concerning the 4th Board of Governors (October 22nd, 2018) (Handout 9)
- (2) Concerning the current situation of the pre-registration and participation of associated institutions of the symposium (Handout 10)
- (3) Concerning the Visiting Professors / Visiting Associate Professors
- (4) Concerning the website of the Consortium
- (5) Other

14:30-15:10 Tour to Dai Nippon Printing Co., Ltd. Gotanda building

(Handout)

Handout 1	The list of the attendee of the 3 rd Steering Committee.....	P.1~
Handout 2	Concerning the moderate of panel discussion in the symposium (plan).....	P.3~
Handout 3	Time schedule of the symposium.....	P.5~
Handout 4	Poster of the symposium.....	P.7~
Handout 5	Concerning the subject teachers who are charge in the associated institutions	P.9~
Handout 6	Agreement of the operation of the Internship program (plan).....	P.11~
Handout 7	Resilience Research and Education Promotion Consortium Management Rules of the Seal (plan).....	P.15~
Handout 8	Concerning to hold the Steering Committee at NCDR (Taiwan)	P.17~
Handout 9	The minutes of the Resilience Research and Education Promotion Consortium the 4th Board of Governors	P.19~
Handout 10	Concerning the current situation of the pre-registration and participation of associated institutions of the symposium.....	P.21~

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第3回運営委員会出席者名簿

(敬称略、網掛けは欠席)

出欠	機関	委員	委員代理	陪席者
出席	セコム	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー 甘利 康文		I S 研究所 企画グループ 主務研究員 平岡 良彦
出席	大日本印刷	研究開発センター 課長 佐波 晶		研究開発センター 前田 賀隆 研究開発センター 伊達 賢志 研究開発センター 武田 星児
出席	日本電気	セキュリティ研究所 主任研究員 柳生 智彦		
出席	スリーエム ジャパン	国土強靱化プロジェクト本部 統轄技術部長 飯野 誠司		常務執行役員 CTO Liu Qiao
出席	DRIジャパン	理事長 長瀬 貫隆	理事 見目 久美子	理事 真城 源学
出席	電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当 スタッフ 上席 星川 英	企画グループ スタッフ 事務員 高橋宗吾	エネルギーイノベーション創発センター テクノロジープロモーションユニット 研究企画・管理グループ スタッフ 上席研究員 山本 博巳
欠席	日本自動車研究所	代表理事 研究所長 永井 正夫		
出席	海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所	航空交通管理領域 領域長 中島 徳顕		
出席	産業技術総合研究所	安全科学研究部門 研究部門長 緒方 雄二		
出席	防災科学技術研究所	理事長 林 春男		企画部 部長 阿部 浩一 企画部 次長 中島 壮一 企画部社会連携課 係員 前山 明輝
出席	労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	災害調査分析センター センター長 池田 博康		
出席	NCDR (台湾)			
出席		教育担当副学長 清水 諭	システム情報系 教授 鈴木 勉	
出席	筑波大学	学位プログラムリーダー (システム情報系 教授 リスク工学専攻長) 遠藤 靖典		システム情報エリア支援室 支援室長 石濱 悟

関係出席者

筑波大学 システム情報エリア支援室 主幹 古谷 明久、主幹 大塚 秀男

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム プロジェクトマネージャー・事務担当者

松原 悠

Mail: matsubara@risk.tsukuba.ac.jp Tel: 029-853-4975 Fax: 029-853-5717

〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学システム情報エリア支援室

シンポジウムパネルディスカッション進行について（案）

日時：2018年12月14日(金) 16:00-16:45 （45分間）

場所：嘉ノ雅 茗溪館2階「茗溪」

（東京都文京区大塚1-5-23、東京メトロ丸の内線「茗荷谷」駅から徒歩1分）

モデレーター：遠藤委員

登壇者：

機関	氏名	所属
セコム	目崎 祐史（めさき ゆうじ）	IS 研究所 所長
日本電気	谷 幹也（たに みきや）	セキュリティ研究所 所長
DRI ジャパン	長瀬 貫隆（ながせ かんりゅう）	理事長
電子航法研究所	中島 徳顕（なかじま とくあき）	航空交通管理領域長
防災科学技術研究所	林 春男（はやし はるお）	理事長
筑波大学	清水 諭（しみず さとし）	副学長（教育担当）・理事

パネルディスカッションのテーマ（案）：

- ・いまリスク・レジリエンス分野で求められている人材とは
- ・協働大学院方式による学位プログラムに期待すること

進行形式：

直前の遠藤委員によるプレゼンテーションを基に、モデレーターが各登壇者に各テーマに関するご意見を伺い、話題を膨らませながら進行する。全ての登壇者に発言の機会があるように留意する。時間が余った場合は、フロアとの質疑応答に移る。

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第1回シンポジウム当日スケジュール

日程：平成30年12月14日(金)

場所：嘉ノ雅 茗溪館（東京都文京区大塚1-5-23、東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅から徒歩1分）

【プログラム】

第5回幹事会 3階「あけぼの」	
10:30-11:00	幹事会出席者用 受付・会計（2階「茗溪」前） ※講演者ノート PC 動作接続確認
11:00-12:00	第5回幹事会
第4回運営委員会 4階「筑波」	
11:30-12:00	運営委員会出席者用 受付・会計（2階「茗溪」前）
12:00-13:30	第4回運営委員会 ※弁当・お茶有
第1回シンポジウム 2階「茗溪」	
第1部 自然・人間社会・サイバー空間に存在するリスクとレジリエンス	
13:00-14:00	一般受付・会計（2階「茗溪」前）
14:00-14:05	開会挨拶 清水 諭（筑波大学 副学長（教育担当）・理事）
14:05-14:30	自然災害のリスクに対するレジリエンスの向上 林 春男（防災科学技術研究所 理事長）
14:30-14:55	日本で起こる事件・事故に深く関わる「世間」という構造 甘利 康文（セコム株式会社 IS 研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー）
14:55-15:20	情報通信技術(ICT)の進化とサイバーリスク 面 和成（筑波大学 システム情報系 准教授）
15:20-15:50	コーヒープレイク ※コンソーシアム個別相談ブース有（岡島教授ほか） ※総合ブース出展機関は適宜来場者に説明してください。
第2部 レジリエンス社会の実現に貢献する人材育成	
15:50-16:00	コンソーシアムが推進する大学院教育～協働大学院方式による新たな学位プログラム～ 遠藤 靖典（筑波大学 システム情報系 教授、リスク工学専攻長）
16:00-16:45	コンソーシアム参画機関によるパネルディスカッション 目崎 祐史（セコム）、谷 幹也（日本電気）、長瀬 貫隆（DRI ジャパン）、 中島 徳顕（電子航法研）、林 春男（防災科研）、清水 諭（筑波大学）
16:45-16:50	閉会挨拶 谷 幹也（日本電気株式会社 セキュリティ研究所 所長）
16:50-17:30	※コンソーシアム個別相談ブース有（岡島教授ほか）
情報交換会 1階カフェスペース	
17:30-19:00	（参加費 2,000 円、要事前登録）

【事前登録】 準備の都合上、12月2日(日)までに事前登録をお願いします。
情報交換会以外は当日参加も可能です。

URL: <https://r2ec.jp/news/882/>

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 第1回シンポジウム

■主催：レジリエンス研究教育推進コンソーシアム ■共催：筑波大学
■後援：地域安全学会、日本災害情報学会、日本自然災害学会、日本災害復興学会、
情報処理学会、電子情報通信学会、日本知能情報フジ学会、エネルギー・資源学会、
日本エネルギー学会、日本都市計画学会、土木学会、警察政策学会、日本市民安全学会、
日本情報経営学会、日本航空宇宙学会、キッズデザイン協議会、日本防災産業会議、
日本ネットワークセキュリティ協会、日刊工業新聞社（順不同）

平成30年 12月14日(金)

14:00～16:50

■場所／嘉ノ雅 茗溪館 2階「茗溪」

東京都文京区大塚 1-5-23、
東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅から徒歩1分

第1部・第2部／参加費無料

我が国は世界的な自然災害大国である。

「強さ」と「しなやかさ」を兼ね備えた安心・安全な国土・地域・経済社会、
すなわちレジリエンス社会の実現は急務の課題である。

本シンポジウムでは、企業、研究機関、大学の参画により 2017 年 12 月に
発会したレジリエンス研究教育推進コンソーシアムによる、
レジリエンス社会の実現に向けた取り組みを発信する。



防災科研・林



セコム・甘利



筑波大学・面



筑波大学・遠藤

第1部

自然・人間社会・サイバー空間に存在するリスクとレジリエンス

14:00～14:05 開会挨拶

清水 諭(筑波大学 副学長(教育担当)・理事)

14:05～14:30 自然災害のリスクに対するレジリエンスの向上

林 春男(防災科学技術研究所 理事長)

14:30～14:55 日本で起こる事件・事故に深く関わる「世間」という構造

甘利 康文(セコム株式会社 IS 研究所
リスクマネジメントグループ グループリーダー)

14:55～15:20 情報通信技術 (ICT) の進化とサイバーリスク

面 和成(筑波大学 システム情報系 准教授)

15:20～15:50 コーヒーブレイク

第2部

レジリエンス社会の実現に貢献する人材育成

15:50～16:00 コンソーシアムが推進する大学院教育

～協働大学院方式による新たな学位プログラム～
遠藤 靖典(筑波大学 システム情報系 教授、リスク工学専攻長)

16:00～16:45 コンソーシアム参画機関によるパネルディスカッション

16:45～16:50 閉会挨拶

谷 幹也(日本電気株式会社 セキュリティ研究所 所長)

情報交換会

17:30～19:00 (参加費 2,000 円、要事前登録)

準備の都合上、12月2日(日)までに事前登録をお願いします。

情報交換会以外は当日参加も可能です。事前登録URLは下欄をご参照下さい。



スマートフォン対応
事前登録申し込み
QRコード

■コンソーシアム参画機関：セコム、大日本印刷、日本電気、スリーエム ジャパン、DRIジャパン、電力中央研究所、日本自動車研究所、電子航法研究所、
産業技術総合研究所、防災科学技術研究所、労働安全衛生総合研究所、国家災害防救科技中心(台湾)、筑波大学

■お問合せ：レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局 TEL.029-853-4975 E-mail:r2ec@risk.tsukuba.ac.jp

■事前登録URL：<https://r2ec.jp/news/882/>

参画機関担当科目の担当教員について

科目名	担当機関	筑波大学世話人教員	担当教員数	担当教員
リスク・レジリエンス工学概論	大日本印刷	西出 隆志	1	非常勤講師予定
	日本電気		1	未定
	電子航法研究所		2	未定 未定
ヒューマンファクター特論	日本自動車研究所	伊藤 誠		未定
セキュリティ論考特論	セコム	遠藤 靖典	1	非常勤講師予定
災害リスク・レジリエンス論	防災科学技術研究所	糸井川 栄一 岡島 敬一	8	客員教員予定
				客員教員予定
				客員教員予定
				非常勤講師予定
				非常勤講師予定
				非常勤講師予定
				非常勤講師予定
				非常勤講師予定
環境・エネルギー・安全工学概論	産業技術総合研究所	岡島 敬一	4	客員教員予定 客員教員予定 非常勤講師予定 非常勤講師予定
	電力中央研究所		1	客員教員予定
リスク・レジリエンス工学 修士インターンシップA	全機関	リスク工学専攻 専任教員		リスク工学専攻 専任教員
リスク・レジリエンス工学 修士インターンシップB	全機関			
リスク・レジリエンス工学 博士インターンシップA	全機関			
リスク・レジリエンス工学 博士インターンシップB	全機関			

※2019年度開講に向け、2019年2月8日のシステム情報工学研究科運営委員会にて非常勤講師の認定

※客員教員が担当教員となる場合も、担当科目の認定が必要

レジリエンス研究教育推進コンソーシアムにおける
インターンシッププログラムに関する申合せ

（ レジリエンス研究教育推進コンソーシアム運営委員会
平成〇年〇月〇日制定 ）

この申合せは、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの参画機関において、学生が現実社会の問題に即した実践的な体験学修を通して、教育研究成果を社会還元する姿勢を涵養することを目的として実施するインターンシッププログラム（以下「インターシップ」という。）の適切かつ円滑な実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（インターンシップの期間）

- 1 インターンシップの期間は、原則として2週間以上3か月以下とする。

（インターンシップの申込み手順）

- 2 インターンシップを希望する学生は、筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻（以下「専攻」という。）が定める様式により、専攻長にインターンシッププログラム申請書（以下「申請書」という。）を提出するものとする。
- 3 専攻長は、学生が希望するインターンシップ先の参画機関にその旨を通知するものとする。
参画機関は、インターンシップ実施の可否を決定し、専攻長に通知するものとする。
- 4 専攻長は、インターンシップ実施の可否を、インターンシップを希望する学生及びコンソーシアムに報告するものとする。

（協定書の締結）

- 5 受入れが決定した場合は、専攻（研究科）と受入れ機関において、以下の事項を定めた協定書を取り交わすものとする。（別紙協定書例）

ただし、受入れ機関において、インターンシップに係る受入れ規則等がある場合は、専攻との協議により、それに基づき実施することができるものとする。

- | | | |
|----------|-------------|--------------|
| ・経費の取扱い | ・秘密保持義務 | ・個人情報保護 |
| ・賠償 | ・傷害補償 | ・インターンシップの中止 |
| ・事前、事後報告 | ・実習生の誓約書の提出 | ・その他必要事項 |

（実習生による誓約書）

- 6 受入れ機関は、必要に応じ、実習生から誓約書を交わすことができる。

附 記

この申合せは、平成 年 月 日から実施する。

インターンシッププログラムに関する協定書

この協定書は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムにおけるインターンシッププログラムに関する申合せ第4項に基づき、筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻（以下、甲という）の学生に対して□○○○○○○○株式会社（以下、乙という）が実施するインターンシッププログラムの取扱いについて、以下のとおり取り決めるものである。

(受入れ)

1 学生氏名等

所 属： システム情報工学研究科リスク工学専攻

課程・学年： 博士 課程 年次

氏 名：

2 実施期間

(西暦) 年 月 日 () ~ 年 月 日 ()

ただし、双方業務上の都合または実習生の学会発表などにより、甲と乙が協議した上で、前項の研修期間を変更することができるものとする。

3 実施場所等

主たる実習場所、実習内容及び所属は次のとおりとする。

実習場所：

実習内容：

所 属：

(経費の取扱い)

4 経費

実習に係る経費（交通費、食費、宿泊費等）の取り扱いは以下のとおりとする。

交通費：

食費：

宿泊費：

報酬：

(秘密保持義務)

- 5 甲は、インターンシップの実施に伴い受入れ機関から開示を受け又は自ら知り得た乙の秘密情報（以下「秘密情報」という。）を、インターンシップの実施の目的以外に使用してはならない。

(個人情報保護)

- 6 インターンシップの実施に当たり、乙が取得した実習生の個人情報は、インターンシップ実施の目的のみに利用する。

(賠償)

- 7 実習生が故意または過失により、乙又は第三者に損害を与えた場合は、法令に従って処理するものとする。

(傷害補償)

- 8 インターンシップ実施中及び自宅またはインターンシップのための宿泊先からインターンシップ実施場所への往復途上の事故等による傷害については、実習生が加入する傷害保険により優先的に補償を受けるものとし、甲及び実習生は、傷害保険による補償の範囲については、受け入れ機関に対する求償権を放棄する。

(インターンシップの中止)

- 9 インターンシップの実施を継続しがたい事由が生じた場合は、乙は、甲と協議の上、当該実習生について、インターンシップを中止させることができる。

(事前、事後指導)

- 10 甲は、指導教員を通じて乙と連絡を取り、学生に対し十分に事前の指導を行うものとする。
- 11 実習生は、実習期間終了後速やかに実習内容に関する報告書を作成し、甲及び乙に提出するものとする。

(知的財産権)

- 12 学生のインターンシップ中に生じた知的財産等の財産権の帰属については、協議の上、処理するものとする。ただし、学生の同意を得た場合は、この限りではない。

(その他)

- 13 この協定書に関し疑義が生じた場合又はこの協定書に記載のない事項については、甲と乙で誠意をもってその都度協議するものとする。

(協定書の効力)

1 4 この協定書は、下記の署名日付より研修修了日まで効力を持つものとする。

本協定の締結を証するため本書 2 通を作成し、甲乙記名の上、それぞれ 1 通を保管するものとする。

(甲) 住 所 : 茨城県つくば市天王台 1 - 1 - 1
 名 称 : 筑波大学大学院システム情報工学研究科
 役 職 : リスク工学専攻長
 氏名 (署名) :

(乙) 住 所 :
 名 称 :
 役 職 :
 氏名 (署名) :

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 印章管理規則

〔 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム運営委員会
平成〇年〇月〇日制定 〕

(目的)

第1条 この規則は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）における印章の種類、新調、保管、使用等の基準について定め、これを統一的に管理することを目的とする。

(印章の定義)

第2条 この規則において印章とは、コンソーシアムが発行し、又は受理する文書、証憑等で、権利義務の行使若しくは履行又は官公署への申請、届出等に際し、コンソーシアム名又は職名で証明のために押す印章及び電子印鑑をいう。

(印章の種類及び印影)

第3条 印章の種類及び印影は別表のとおりとする。

(印章の新調、改刻及び廃止)

第4条 印章の新調、改刻及び廃止は、会長の承認を得て事務局が行う。

(印章の管理)

第5条 印章の保管・押印に関する責任は、事務局が負うものとする。

2 印章は、盗難及び不正使用のないようすべて印章箱に納めて保管し、勤務時間外にあっては金庫その他確実な保管設備のあるものに保管し、かつ施錠しておかなければならない。

(印章の使用)

第6条 印章は、事務局でなければ使用することができない。

2 印章を押印する場合は、押印する文書と原議を対査しなければならない。

3 事務局は、前項の規定により印章を押印したときは、印章使用簿にその内容を記載しなければならない。

(印章の事故報告)

第7条 事務局は、保管する印章が盗難、紛失その他の事故にあったときは、直ちにその経緯について会長に報告するとともに、その指示を受けて所要の措置を講じなければならない。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか、印章に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成〇年〇月〇日から施行する。

別表（第3条関係）

種類	印影	表示文言及び寸法
コンソーシアム会長印	 A square red seal impression in seal script. The characters are arranged in two columns: the right column reads 'レジリエンス研究教育推進' (Resilience Research Education Promotion) and the left column reads 'コンソーシアム会長之印' (Consortium President's Seal).	レジリエンス研究教育推進 コンソーシアム会長之印 一辺30mm程度の正方形

台湾 NCDR における運営委員会開催について（案）

- 【行事名】 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第5回運営委員会
- 【概要】 コンソーシアムの来年度活動計画、学位プログラムの準備等について審議・報告。NCDR と関係機関向けのリスク・レジリエンスセミナー、NCDR 見学会、防災関係施設・文化施設見学ツアーを同時開催。
- 【日程】 2019年3月26日(火)～27日(水)
- 【会場】 National Science and Technology Center for Disaster Reduction (NCDR)
Union Development Building
- 【日本からの参加者数】 20～25人
- 【プログラム】 ※NCDR の都合があるため、今後変更の可能性あり

<2019年3月26日(火)>

9:20(JST)	羽田空港発（全日空 NH851）
12:30(CST)	台北松山空港着（NCDR 送迎バス有）
14:00-15:00	NCDR 着、第5回運営委員会（弁当 1,000 円、Skype 参加可）
15:00-16:30	リスク・レジリエンスセミナー（林会長、甘利副会長）
16:30-18:00	NCDR 見学会
18:30-21:30	懇親会（会費 3,000 円）

<2019年3月27日(水)>

8:30-9:00	ホテル→防災関係施設等（バス移動）
9:00-14:50	防災関係施設等見学ツアー（昼食自弁）→台北松山空港（バス移動）
14:50	台北松山空港着
16:50(CST)	台北松山空港発（全日空 NH854）
20:40(JST)	羽田空港着

※航空券代・宿泊代は筑波大学が負担。前泊・後泊も可。プランは下表のとおり。

プラン	前泊	後泊	行きの便	送迎バス	帰りの便	送迎バス
A	/	/	3月26日(火) NH851 便 羽田 9:20-台北松山 12:30	○	3月27日(水) NH854 便 台北松山 16:50-羽田 20:40	○
B	○	/	3月25日(月) ※希望便をお知らせください。	/	3月27日(水) NH854 便 台北松山 16:50-羽田 20:40	○
C	/	○	3月26日(火) NH851 便 羽田 9:20-台北松山 12:30	○	3月28日(木) ※希望便をお知らせください。	/
D	○	○	3月25日(月) ※希望便をお知らせください。	/	3月28日(木) ※希望便をお知らせください。	/

※前泊・後泊の場合は送迎バス無しのため各自タクシー等で移動

※出欠とプランについて回答依頼中（12月10日(月)まで）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第4回幹事会議事要旨

1 日時：平成30年10月22日(月)10時00分～11時00分

2 場所：防災科学技術研究所 東京会議室

3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤

陪席者：阿部、中島、前山（防災科学技術研究所）、松原（筑波大学）（敬称略）

4 議事

(1) シンポジウムパネルディスカッション進行について（案）（資料1、2）

遠藤委員より、資料1および2に基づき、シンポジウムパネルディスカッションのテーマ、進行形式等について説明があり、承認された。

(2) 参画機関担当科目の担当教員について（資料3）

遠藤委員より、資料3に基づき、平成31年度の参画機関担当科目の担当教員について説明があり、報告された。担当教員については、事務局から各参画機関に改めて確認を依頼することとなった。

(3) インターンシッププログラム実施に関する規則について

遠藤委員より、平成31年度からのインターンシッププログラム実施のための規則の素案を作成する必要がある旨の説明があり、事務局が素案を作成することが承認された。

(4) コンソーシアムの印章について（資料4）

遠藤委員より、外部機関宛の文書作成に備えて事務局に会長印を置きたい旨の要請があり、承認された。さらに、資料4に基づき、印章の管理に関する規則（案）の説明があり、承認された。なお、甘利副会長より次の意見があった。

✓ 電子印鑑の管理についてもカバーできるような規則の表現にした方が良い。

(5) 2019年2～3月の運営委員会について

遠藤委員より、2019年2～3月の運営委員会を台湾NCDRで開催する旨の提案があり、承認された。後日事務局がNCDRに開催を依頼することとなった。

(6) その他

・シンポジウムのブースについて

遠藤委員より、シンポジウムのブースにおけるパンフレット類配置、機関活動ポスター掲示、デモ実施の希望有無を事務局から参画機関に回答依頼する旨の報告があった。

・シンポジウム事前登録者一覧について（別紙1）

遠藤委員より、別紙1に基づき、現在のシンポジウム事前登録者一覧について報告があった。

・英語版ウェブサイト制作について

遠藤委員より、英語版ウェブサイト制作のため、事務局から参画機関に、英語版ロゴの提供依頼、意気込み文英訳版（事務局が仮作成中）の確認依頼をする旨の報告があった。

・シンポジウム当日の林会長の予定について

林会長より、シンポジウム当日（12月14日）について、防災科学技術研究所主催のシンポジウム出席のため、運営委員会を中座する旨の報告があり、その間の進行は甘利副会長が担当することとなった。

以上

シンポジウムの事前登録状況・参画機関参加状況について

平成 30 年 11 月 26 日(月)14 時 10 分現在

日程：平成 30 年 12 月 14 日(金)

場所：嘉ノ雅茗溪館

○第 4 回運営委員会【定数 8】

出席 9	セコム、大日本印刷（代理）、DRI ジャパン、日本自動車研究所、電子航法研究所、産業技術総合研究所（代理）、防災科学技術研究所、筑波大学（清水代理・遠藤）
欠席 4	日本電気、スリーエム ジャパン、電力中央研究所、労働安全衛生総合研究所
未回答 1	NCDR

○シンポジウム事前登録（12/2 締切）

合計 65 人（うち情報交換会参加 26 人）

【うち参画機関】

登録済 6 機関 <u>28 人</u> （うち情報交換会参加 20 人）	セコム 6 人、スリーエム ジャパン 1 人、DRI ジャパン 1 人、電子航法研究所 1 人、防災科学技術研究所 2 人、筑波大学 17 人
欠席連絡 4 機関	スリーエム ジャパン（ただし事前登録者あり）、電力中央研究所、産業技術総合研究所、労働安全衛生総合研究所
未登録 4 機関	日本電気、大日本印刷、日本自動車研究所、NCDR

【うち一般】

登録済 <u>37 人</u> （うち情報交換会参加 6 人）	竹中工務店、警察大学校警察政策研究センター、合同会社西友、リスク・フロンティア、国立研究開発法人建築研究所、参天製薬株式会社、株式会社大林組、三井住友海上火災保険株式会社、長尾産業株式会社、株式会社アカリク、総合警備保障株式会社、凸版印刷株式会社、株式会社電波タイムス社、株式会社建設技術研究所、デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社、千葉市花見川区幕張町 4 丁目町内会・防災会、日本空港無線サービス株式会社、大阪府立大学工学研究科航空宇宙分野小木曽研究室、済生会横浜市東部病院、積水ハウス(株)渉外部、大日本コンサルタント（株）関東支社、日本オラクル株式会社、以上 23 機関各 1 人 所属記入なし：14 人
------------------------------------	---

○シンポジウムパネルディスカッション登壇

登壇 6	セコム 目崎 祐史（めさき ゆうじ） IS 研究所 所長 日本電気 谷 幹也（たに みきや） セキュリティ研究所 所長 DRI ジャパン 長瀬 貫隆（ながせ かんりゅう） 理事長 電子航法研究所 中島 徳顕（なかじま とくあき） 航空交通管理領域長 防災科学技術研究所 林 春男（はやし はるお） 理事長 筑波大学 清水 諭（しみず さとし） 副学長（教育担当）・理事 (敬称略)
辞退 5	大日本印刷、スリーエム ジャパン、電力中央研究所、産業技術総合研究所、労働安全衛生総合研究所
未回答 2	日本自動車研究所、NCDR

○シンポジウム総合ブース出展

パンフレット設置 5	セコム、DRI ジャパン、産業技術総合研究所、防災科学技術研究所、筑波大学
ポスター掲示 1	防災科学技術研究所（A0・2 枚）
実演実施 0	
ロールアップバナー設置 1	セコム
辞退 5	大日本印刷、日本電気、スリーエム ジャパン、電力中央研究所、労働安全衛生総合研究所
未回答 3	日本自動車研究所、電子航法研究所、NCDR

（参考：広報状況）

10/15	大学、茨城県市町村、東京都区、関係官庁、後援機関等 341 箇所ポスター発送
10/11	日本都市計画学会メールニュース配信
10/11	土木学会運営の情報交流サイト掲載・メール配信
10/12	日本エネルギー学会ウェブサイト掲載
10/18	情報処理学会ウェブサイト掲載
10/24	『産経新聞』朝刊 東京 23 区版 広告掲載
10/26	『産経新聞』朝刊 北関東版 広告掲載
10/31	『土木学会誌』広告掲載
11/1	『電子情報通信学会誌』広告掲載
11/5 or 12	『文教ニュース』記事掲載（確認中）
11/10	『エネルギー・資源学会誌』広告掲載
11/10	日本建築学会メーリングリスト 広告掲載
11/15	『情報処理』広告掲載
11/20	『日本エネルギー学会誌えねるみくす』広告掲載